

《原子力規制委員会による新規制基準適合性審査に係る現地調査が実施されました》

11月16日（木）、原子力規制委員会による女川原子力発電所の設備設計、重大事故対策、地震・津波対策などの安全対策に係る現地調査が実施されました。調査では、当社がこれまで審査会合等で説明してきた安全対策や技術評価の内容をはじめ、今後の審査で論点となる施設等を直接確認いただきました。具体的には、想定津波高23.1mに対して、高さ29mにかさ上げした「防潮堤」や、非常時に原子炉を冷却する水源を確保するため、敷地高台（海拔約62m）に設置している貯水容量10,000m³の「淡水貯水槽」をはじめ、原子炉建屋の周辺や建屋内に設置を予定している安全対策設備の概要等について確認いただきました。また、原子炉建屋壁（耐震壁）のひび割れの補修状況および、壁・天井の耐震補強工事の概要等についても確認いただきました。

調査後、山中伸介委員からは「震災で被害を受けた地域の発電所ということ踏まえ、防潮堤や淡水貯水槽が非常に堅牢な造りをしているという印象を受けた。現場の方々の地震に対する意識の高さ、施設整備に関する技術力の高さというものを感じた」等のコメントがありました。

今後も引き続き新規制基準適合性審査に真摯に取り組むとともに、新規制基準への適合に留まらず、より高いレベルの安全確保に向けて安全対策に万全を期してまいります。



終了会議で講評を述べる山中伸介委員



防潮堤での説明の様子



原子炉建屋内での説明の様子

シリーズ 常に備える②

《宮城県などが主催する原子力防災訓練に参加しました》

11月14日（火）、宮城県など関係自治体*が主催する「平成29年度原子力防災訓練」が行われ、当発電所も原子力災害医療活動訓練等に参加しました。

当日は、「地震により女川原子力発電所3号機の放射線管理区域内で機材が倒れ、付近に高濃度の放射性物質が飛散し、発電所員4名が被災する（放射性物質による体表面汚染・外部被ばくを伴い、うち1名は内部被ばくの恐れがある）」との想定で訓練が行われました。この訓練において、当社は、救急連絡情報の発信や汚染傷病者の応急手当、汚染部位が広がらないようにする処置や救急隊への汚染傷病者の引渡しなど、緊急時における円滑かつ適切な医療活動や関係機関との連携ならびに連絡体制の確認などを行いました。

今後も関係機関や関係自治体と連携を図りながら、緊急時の対応力向上に努めてまいります。

*宮城県、女川町、石巻市、登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町



放射線測定器による体表面汚染の検査の様子



環境・燃料部 放射線管理グループ
おいかわ しょうご
及川 勝吾（大崎市出身）

私は、医療機関において、放射性物質による汚染を伴う傷病者の検査対応等を行いました。

傷病者が何人も発生した際の対応は初めてだったので、戸惑う部分もありましたが、医療機関の方と連携し、適切に対応することができました。

今後もこのような訓練を通じて、有事の際にしっかり対応できるよう備えたいと思います。

《「図画コンクール」入賞作品決定》 ～入賞された皆さま おめでとうございます～

当発電所では、未来を担う子どもたちの「想像力」と「考える力」をはぐくみ、個性や才能を伸ばすお手伝いをさせていただきたいという思いから、毎年、小学生以下の児童の皆さんを対象とした「東北電力図画コンクール」を開催しております。

16回目となる今回は、過去最高となる5,396点もの作品をお寄せいただきました。審査の結果、甲乙つけがたい力作の中から最優秀賞1点、優秀賞7点*を含む39点の入賞作品が決定し、12月2日(土)に表彰式を行いました。

なお、一次審査を通過した200点については、下記の会場において作品展を開催いたします。お誘い合わせの上、ぜひお越しください。



作品展会場および日程

○東北電力グリーンプラザ(仙台)

期間:平成29年12月26日(火)
～平成30年1月8日(月・祝)
※12月28日(木)12:00
～1月3日(水)まで年末年始休

○石ノ森萬画館(石巻)

期間:平成30年1月27日(土)
～平成30年2月4日(日)

○イオンモール石巻

期間:平成30年2月17日(土)
～平成30年2月25日(日)

※1月号では、最優秀賞および優秀賞作品を特集でご紹介する予定です。

《東北電力杯家庭バレーボール大会を開催しました》

11月5日(日)、女川町総合体育館において、当社協賛による『第21回東北電力杯家庭バレーボール大会(主催:女川家庭バレーボール協会)』が開催されました。

当日は、女川原子力発電所からも2チームが参加し、全10チーム(約100名)による熱戦が繰り広げられました。



日頃の練習の成果を発揮する選手達

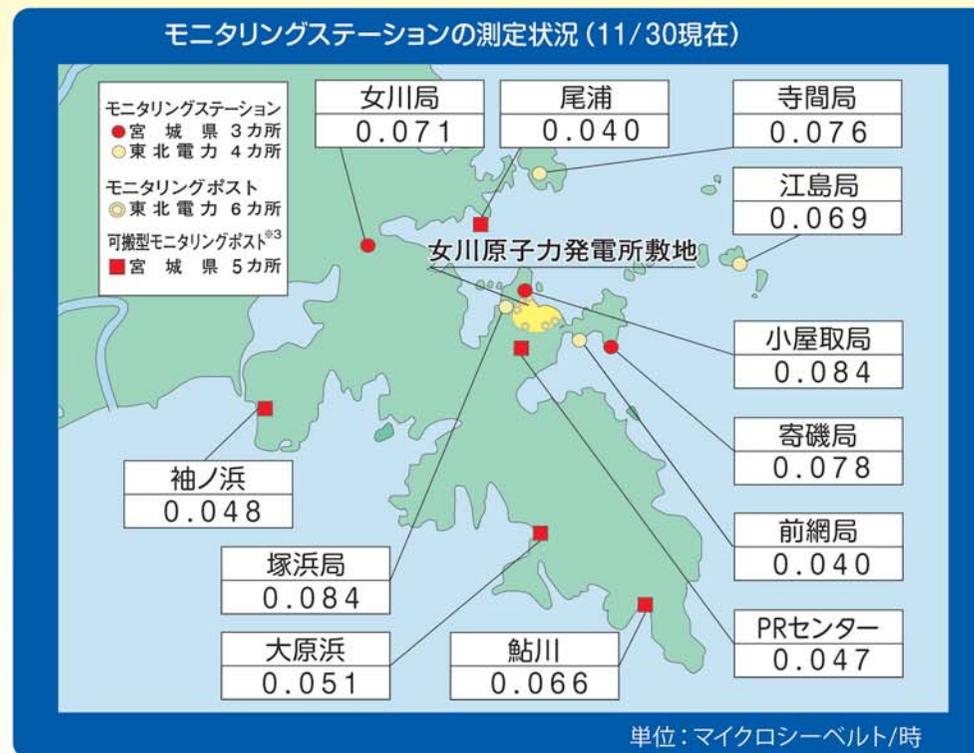
《大会結果》

- 優勝: TU-FU(発電所チーム)
- 準優勝: Zero(女川町内チーム)
- 第三位: ONPS(発電所チーム)

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト*1やモニタリングステーション*2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.052マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値

《東北地方太平洋沖地震発生日》	
平成23年3月11日	0.027~0.064
《地震発生後最大値》	
平成23年3月13日	1.8~21*4
《地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値》	
平成24年4月1日	0.063~0.098
平成25年4月1日	0.055~0.076
平成26年4月1日	0.046~0.065
平成27年4月1日	0.043~0.077
平成28年4月1日	0.041~0.061
平成29年4月1日	0.038~0.059
平成29年11月1日	0.037~0.052
平成29年11月30日	0.038~0.052

単位: マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。